

令和元年5月12日
審判長 花岡 幸世

広島県北部ミニバスケットボール連盟 第1回審判講習会兼TO講習会まとめ

本日は、今年度第1回目の審判講習会、TO講習会にご参加いただき、ありがとうございました。会場設営や運営に係り、たくさんの方にご協力いただいたおかげで無事に終わることができました。感謝しております。

今年度は、半日の短期集中で行いましたが、短い時間の中でも精力的に審判、TOに取り組んでいただき、充実した講習会になったのではないかと思います。特に、TO担当の横山さんには、サブTOにずっとついてご指導いただき、本当にありがとうございました。今日の講習会が、県北部の選手のTO技能の向上につながればと思います。今後は各チームで練習を積み重ねて、大会で困らないようにしっかりと準備していただければと思います。

また、審判講習会では、試合数以上の審判員の方に参加していただきました。十分な時間が取れない中、いろいろな方がアドバイスをしたりクルー同士で試合後に反省をしたりと中身の濃い講習になったと思います。

ゲームを通して見られた共通的な成果・課題と個人的に今後取り組まれていくとよいと思う点についてまとめて、お伝えさせていただきます。今後の取り組みに生かしていただければと思います。よろしくをお願いします。

<全体を通して>

1. 3Sの笛が鳴る人が増えた

○3S (SHORT 短く・SHARP 切れ味するどく・STRONG 強い) でふくことができる人、場面が増えたように思います。選手・ベンチ・TO・観客全員に伝わるように、大きな笛でふけるように今後も意識していきましょう。

2. 正しい審判の合図 (シグナル)

○「正しいシグナルを意識してふこう」という姿勢が見られました。

☆ボールがデッドになった瞬間に、手を挙げてゲーム・クロックを止めましょう。

手を挙げることで、相手審判と確認をする時間が生まれます。より正確な判定をするために、相手審判とアイコンタクトをしてどちらのボールか確認してから方向を示すようにしましょう。

☆ファウルをTOへ伝達するときは、スコアラーに正しく伝わるようゆっくり、はっきりを意識しましょう。TOに近づきすぎないように注意しましょう。

①番号を声に出して数字を示す…大きな声でレポートしましょう。

②ファウルの種類を示す

③次の行動を示す（2ショット or 1ショット、もしくはディレクション）

3. ゲーム管理

○TOや相手審判への意識が高くなった人が多く見られました。

☆講習会の中でもお伝えしましたが、現在審判の運営は、TOを含めたクルー（チーム）で行うという意識を強くもつようと、審判委員会からも通達が出ています。

☆相手審判とのエリアや視野の分担が必要な場面があります。例えば、オールコートでの受け渡しが必要な場面では、リードがセンターライン付近である程度ステイして、トレイルが追い付いたら受け渡すようにしましょう。また、ハーフコートでは3番エリアをどう見るか、2人で確認するようにしましょう。（図1参照）

☆スローインの前に、24秒計や相手審判を見る習慣、OKサインを出す習慣を身に付けましょう。

4. その他

○現象をしっかりとらえて、判定ができるようになってきました。

☆選手のレベルも高くなり、トラップディフェンスや強引に割り込むオフェンス、スクリーンプレー等が増えてきました。悪いものを見逃さずにくくために次のことを意識しましょう。

①ファウルの3原則（接触の事実、責任、影響）

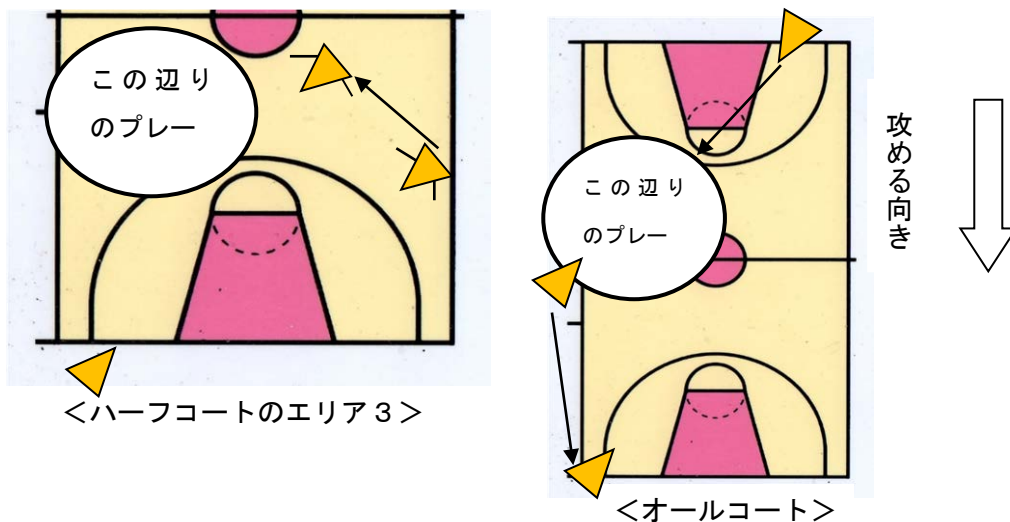
→影響を見極める4つのポイント RSBQ

（リズム、スピード、バランス、クイックネス）

②シリンダーの概念

③スクリーナーの位置取り（動きながらは×、後方からの場合は1歩の距離を置く）

（図1）トレイル・リードの位置取り



<個別>

<Aさん>

- 基本的な審判としての動きが身に付いています。
- ゲーム管理の視点（相手審判との確認，T Oの管理）を意識してふかれています。
- ☆次の展開を意識しすぎるあまり，トレイルが極端に高くなったり最後まで確認せずに次の場所へ移動したりしてしまうことがありました。その場面で，最も大切なプレーを見落とさないように，自分の責任エリアに移動したりとどまったりして，判定をしてから次の場所へ移動するようにしてください。

<Bさん>

- 基本的な審判の動きやはっきりとしたシグナルができています。毅然とした態度で判定されています。
- 以前より前傾姿勢が改善され，視野を広く見るようになってきました。
- ☆トレイルの位置が高くなりがちです。リードに入るのが遅れることに備えてのケースもありますが，とくにミニではリードに遅れても対応ができると思いますので，トレイルの時は3 Pラインのトップから延長上のところまでおりて，左サイドのドライブに対する接触等の確認ができる位置取りを心がけましょう。

<Cさん>

- 他種別もふかれることで，審判としての動きやプレーの見方が身に付いてこられました。自信をもって判定されるシーンが増えました。
- T Oや相手審判への意識が高くなっているように感じます。今後も連携をしっかりと，ミスを事前に減らすよう努めていかれるとよいと思います。
- ☆ゲーム・クロックを止める合図をせずにディレクションやバイオレーションのシグナルをすることがあります。落ち着いてゲーム・クロックを止める合図をしてから，次のシグナルをしましょう。

<Dさん>

- 積極的に笛を鳴らし，判定しようという意欲が見られました。
- ファウルが起こりそうな場面を予測して，タイミングよく笛が鳴っていたのがよかったと思います。
- ☆トレイルの位置取りが高いことが多いので，トレイルの時は3 Pラインのトップから延長上のところまでおりて，左サイドのドライブに対する接触等の確認ができる位置取りを心がけましょう。

<Eさん>

- 一つ一つのシグナルを丁寧に行い，みんなに分かりやすく伝えようとされていることが感じられました。

○自分の責任エリアでのファウルをしっかりとふけていました。これからも自信をもって判定してください。

☆正しい判定ができていますので、自信をもって大きな笛、大きなシグナルを示しましょう。今、審判に求められている大きな要素は、プレゼンテーション能力です。

<Fさん>

○審判経験があるのがよく分かる動き、見方でした。プレーに対する予測ができていたので、先回りしてプレーをとらえることができていました。

○相手審判やTOへの配慮、フォローもできていました。

☆プレゼンテーションを意識して取り組むとさらによくなります。きびきびとした所作を身に付けましょう。

<Gさん>

○他種別をふいたり講習会に参加したりすることで、審判としての動きやプレーの見方が身に付いてきています。

○よりよい位置を求めて、よく動いていました。笛の大きさ、ファウルのレポートの声など、高い意識で臨まれていることがよく分かりました。

☆判定力を高めるために、予測を大切にしていきたいと思います。「きっとこういうプレーが起こるだろう」と予測する習慣を付けることで、よりよいタイミングで落ち着いて判定できるようになると思います。

<Hさん>

○他種別もふかれることで、審判としての動きやプレーの見方が身に付いてこられました。落ち着いて判定されるシーンが増えました。

○トレイルでの動きが機敏になってきました。よりよい位置に動こうとする姿勢がすばらしいと思います。

☆リードではショットの後、ボールを目で追いません。リバウンドに目を当てるようにしましょう。

<Iさん>

○落ち着いて判定できるようになってきました。単純に笛の鳴る回数が、以前より倍近く増えていると思います。

○ベンチからのアピールに丁寧に説明をされていました。今後もベンチの意図を感じ取り、必要に応じて適切にコミュニケーションをとってください。

☆ファウル後のTOへのレポートをしっかりとしましょう。ある程度の距離を保つことで、TOだけでなくベンチや観客へも何が起こったかが伝わりやすくなります。

☆ゲーム・クロックを止める合図をせずにディレクションやパイオレーションのシグナルをすることがあります。落ち着いてゲーム・クロックを止める合図をしてから、

次のシグナルをしましょう。

<Jさん>

○他種別，他地区も積極的にふきに行かれていますので，審判としての動きやプレーの見方が身に付いてくれました。自信をもって判定されるシーンが増えました。

○ファウルの確認のために，少しずれて間を見る努力をされています。それが判定につながっています。

☆責任エリアで何か起こったとき（アウト・オブ・バウンズやキックボール等）は，まず笛をふいてゲーム・クロックを止めましょう。

☆ファウル後のTOへのレポートをゆっくりはっきり行いましょう。

<Kさん>

○後半，自分で積極的に鳴らす笛が増えました。これからも自分のとらえたものを，勇気を持ってふき続けてください。

☆笛がまだまだ弱く，選手に伝わらないケースもありました。まずは，アウト・オブ・バウンズや明らかなファウル，バイオレーションを大きな笛でふくように心がけてください。

<Lさん>

○バイオレーションやアウト・オブ・バウンズで手を挙げる事等，今自分にできることを一つ一つ丁寧に行おうという姿勢が見られました。まずは，自分の責任エリアでの判定を積み重ねていきましょう。

☆基本的にトレイルの位置が高いので，3Pラインのトップから延長上のところまでおいて，より近い位置で判定できるようにしましょう。

<終わりに>

私たちは、お互いに審判であり、チームの指導者です。自分のチームの試合もあり審判もありという大変忙しい中で、審判をしていくこととなりますが、そのゲームの審判を担当する以上、ゲーム管理のために適切な行動（担当するゲームの直前やゲームの最中に、選手への不必要な声かけや指導者との過度な接触を避ける）や試合に臨む準備をする等、最大限の努力をするように気を付けていきましょう。

毎年審判講習会のたびにお伝えしていますが、参加者の皆さんの上達ぶりや向上心に本当に感心しています。普段のゲームを見る視点も審判の視点で見られるようになってきていることを実感しています。私自身も、地区審判長として自分の審判を見ていただくことで範を示せるように研鑽を続けていきたいと思えます。気になることや疑問、質問等いつでも受け付けますので、気軽に声をかけてください。

また、今年度はとくに「インテグリティ」についての意識を高めていければと思っています。（資料1・2参照）選手への声のかけ方、言葉遣いについて、お互いに気を付けていきましょう。

最後になりましたが、今後も試合が終わった後、相手チームや審判、お互いに感謝の気持ちをもって、笑顔で握手ができるような試合を共に創っていきましょう。

資料1

JBA インテグリティ委員会（概要資料 P7）

第1回インテグリティ委員会開催（2019年1月28日）

JBAとしての喫緊課題「暴力暴言根絶」に向けての対応

①メッセージの発信

クリーンバスケット、クリーンザゲーム ～暴力暴言根絶～

- 主題（JBA、トップリーグ・団体共通）「クリーンバスケット、クリーンザゲーム」
クリーンバスケット・・・バスケットファミリー全員の協力によりバスケットの価値を高める
→オフコートでのあり方
クリーンザゲーム・・・試合に関わる選手、コーチ、審判全ての協力で試合の価値を高める→オンコートでのあり方
- 副題（各団体で設定） JBAは「暴力暴言根絶」

会場にバナーの貼付、プログラムへの掲載

ゲーム中のコーチによるプレーヤーへの 暴言、暴力的行為に対する対応方針（ガイドライン）

JBA では、**インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）**に則り、「**クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム**」を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、**ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」**にそったものでもあります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためには**コーチの振る舞い（行動や行為）**も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、**ゲームを観ている観客の方々にとっても大きな影響を与えます。**

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、**ゲームの価値を下げない取り組み**を推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

1. コーチのプレーヤーに対する暴言

(1) 人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ぬ、てめえ、この差が、貴様

(2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉役立たず、下手くそ、アホ、バカ

(3) 身体的特徴をけなす言葉

〈具体例〉チビ、デブ

(4) 恐怖感を与える言葉

〈具体例〉殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

(1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為

(2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

(3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為

(4) 継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

(5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

(1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

